

## 地域おこし協力隊の 利活用について

新風会

多比良和伸

**問** 総務省の地域自立応援事業である「地域おこし協力隊事業」は砂川市外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくものです。砂川市も過疎地域と認定されており、やる気のある各団体も人件費や人手不足の問題で事業が進まない現状です。

**答** この事業は隊員一人当たり年間350万円を上限とする財源手当てが行われますので、各団体にとって貴重な人材の確保と財源により、前に進むための推進力になるかと思われま。農商工・福祉分野でこの制度の利活用の可能性について伺います。

時の販売支援、また、都市部での居住経験を生かした都市住民のニーズに合った観光企画や修学旅行生の農作業体験企画が考えられます。福祉分野では高齢者や障害者の見守りサービス、除雪、通院・買い物等の移動サポート支援、住民の健康増進・予防支援、子育て支援等が考えられますが、制度終了後も定着・定住できるような生活支援・就職支援等を確保する必要があります。しかし人口減少を少しでも抑制するためにも終了後の支援の確実性も含めて利活用を検討します。



## 中学校での武道と ダンスの必修化について

日本共産党

土田 政己

**問** 今年の4月から中学校の保健体育科で、武道とダンスが必修化されますが、専門家はこれらの指導について、指導者側に確かな指導理論と技能が必要であり、生半可な指導では正しい実技・技術を身につけさせる事ができないばかりか、ひとつ間違えれば生徒の生命にも関わると言われていますので、市内中学校の条件整備の状況について伺います。

**答** この4月から完全実施となります。新しい中学校学習指導要領では、それまでは選択での履修となっていました。武道とダンスが必修化され、砂川市の中学校においては、武道の種目として、柔道を実施することが既に決まっています。ご指摘のように、体育の授業で武道やダンスを指導するに当たり、その趣旨や競技そのものの特性上、指導者の専門知識や指導技術が不可欠であります。

そのため、保健体育の指導に関する専門性を有する教員が指導に

当たるとはもちろんです、研修会等に参加し研修を行うなど、指導者の専門知識や指導技術を高めるための取組みを行ってきました。特に柔道では、中学校で初めて経験する運動種目であることから、事故の発生を心配する声が多く聞かれるところであります。

このことから、指導に当たっては、学習段階や個人差を踏まえた指導となるよう十分配慮するとともに、相手を尊重し、安全に対する意識を高め、生徒が危険を回避する知識や技術を習得できる安全指導の徹底を図ってまいります。



柔道の授業風景

## 孤立者の調査と

### 支援等について

市民クラブ

増山 裕司

**問** 札幌市で姉妹が孤立死する痛ましい事故が発生しました。当市における孤立者の実態調査結果及び課題と対策について伺います。

**答** 市内在住の療育手帳保有者228人のうち単身世帯117人について調査した結果、「施設に入所や通所している」、「長期入院中である」、「就労している」、「福祉サービスを利用している」など確認できる状態にある相談者がいるなど117人全員が孤立状態でなかったことが確認されました。引き続き2人世帯以上の111人についても調査中です。今後も定期的に調査を継続し状況把握をしていきます。

課題としては、民生児童委員や町内会などによる地域での見守りがあります。ただ、個人情報取り扱いの問題もあり、本人、家族などの理解と協力を得る努力を行うと共に、困った場合の対応について説明していきます。現在、北海道では電気事業者、ガス事業者と市町村間で料金の滞納による生

活困窮者などの情報を共有できる仕組みづくりを検討しており、その動向をみて事業者との連携についても検討していきます。

### 生活保護について

**問** 生活保護申請時の窓口対応について。

**答** 生活保護の相談者には、原則複数の職員で面接を行い、相談内容の秘密を守ることを告げ、受給要件など生活保護制度が正しく理解されるよう、相談内容に応じて丁寧に対応しています。



## 空き店舗で

### 高齢者対策について

市民の声

小黒 弘

**問** 中心市街地で空き店舗が目立つようになりました。空き店舗を利用し、街に出た高齢者が気軽に集い、話し、お茶を飲めるような「(仮称)高齢者ほっとステーション」を作ることはできないか伺います。

**答** 街に出た高齢者が気軽に集える場所として、街なかから徒歩圏内に地域交流センターゆうがあり

ます。ゆうでは夏冬問わず自由に休憩できる交流スペースのほか、多目的トイレも設置されています。また、「いきいきサロン」を開催し、健康運動のほか楽しく交流できるプログラムが用意されており、高齢者にとっては快適な施設環境で憩えるものと考えています。

このように、立ち寄ることができきる施設があることから、高齢者対策として現在のところ、空き店舗を利用した施設を中心市街地に作る予定はありません。

### 砂川駅の バリアフリー化について

**問** 砂川駅の上り線(札幌方面)は急な階段を昇り降りしなければなりません。橋上駅化する必要はないでしょうか。また、ホームに待合所があれば喜ばれると思います。橋上駅について伺います。

**答** 橋上駅について、JR北海道と協議を進めています。時間が掛かるものと考えています。また、列車ホームの待合所については、橋上駅での協議の中で出てくる話と考えています。



高齢者ふれあいサロン(滝川市)